育成 モノづくり人材 Vol. 14

熊本県立小川工業高校

特別支援学校と交流授業

熊本県立小川工業高校は、熊本市の中心部から南に約20キロメートルの宇城市小川町の静かな田園風景の中にある。同校のモットーは〝北辰（北極星）となりうる人材の育成〟。将来、北極星のように各方面の中心人物となって、活躍してほしいという願いを込めて教育を推進している。

五つの学科の中には九州で唯一、全国でも珍しい「設備工業科」がある。建物内の空調や水道、電気などインフラ設備の工事実習を行う設備を完備。国家資格対策の課外授業も万全で毎年関連の国家資格合格者を出す。

井上校長

【DATA】▷校長＝井上龍一氏▷所在地＝熊本県宇城市▷学科構成＝機械科、建築科、土木科、設備工業科、情報電子科▷生徒数＝566人（15年8月現在）▷実習設備＝マシニングセンター、CAD／CAM、セオドライト、万能試験機、冷凍実験装置、シーケンサーなど▷主な進路＝日産自動車、日産車体、日立ニコトランスミッション、ニッパツ、JFEスチール、デンソー、トヨタ車体、東京ガス、新日鉄住金八幡製鉄所、九電工、櫻井精技、宮崎大学、崇城大学、熊本学園大学、東海大学など

技術系部活動も盛んだ。2015年度は「熊本県高校生ものづくりコンテスト」電子回路組立部門で金賞、「ジャパンマイコンカーラリー熊本大会」は団体戦で準優勝、「熊本県高校生アイデアロボットコンテスト」でアイデア賞を獲得するなどの実績を挙げた。

同校ならではのユニークな取り組みがある。近隣の二つの県立特別支援学校とモノづくりを通じた連携だ。特別支援学校の子どもたちとの交流を通じて、滑り台や〝はめ込み式時計〟といった遊具や教材を授業で作製し寄贈する活動だ。地域からの信頼も厚い。

建築科の木材加工実習

井上龍一校長は「他者との触れ合いから、相手の気持ちをくみ取れる人に育ってほしい」と力を込め「求められていることを知り、必要とされるものをつくるのがモノづくりの本質だ」という。

工業高校生は、将来の日本のモノづくりを支える技術者や職人の卵。「社会に出ても粘り強く学び続ける若者を育てるのは工業高校の役割。受け入れる企業側も、少々物足りなく感じても、諦めずに育成してほしい」と要望する。

（熊本支局長・勝谷聡）

（金曜日に掲載）

無断転載・複写禁止 ㈱日刊工業新聞社